

認知症ケア論

北翔大学

オリエンテーション 認知症の方の生活理解

第一回

『人』と『認知症』という見方・捉え方

人を見るスキルを高めれば
支援は高まり充実してくる

「認知症の人」から
「認知症」と「人」の支援へ
サブタイトル

『前提を考える』

『の』から『と』へのすすめ

「認知症の人」への提言

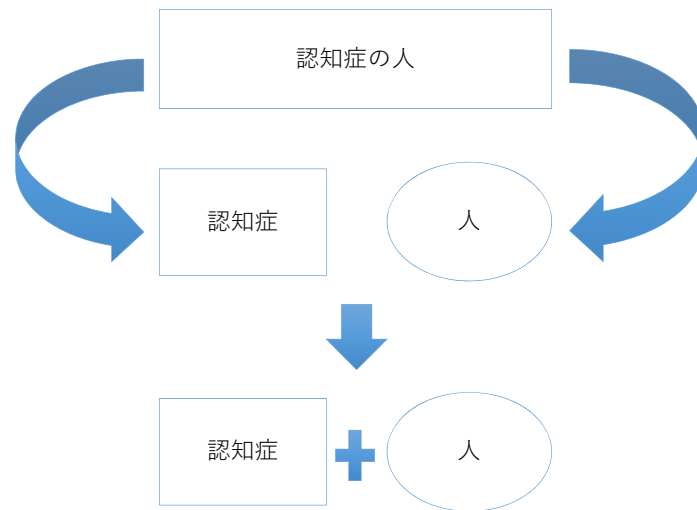
- 認知症のケアなのか？
- 人のケアなのか？
- 認知症の状態をケアする
- 人が生きることを支援する
- 認知症の理解
- 人の理解

それぞれ別々に考えてみる

別々に捉えた（考えた）上で
足して考えてみる
すると

認知症を持つ『人の姿』が見えてくる

『認知症』と『人』の図解



これまで から これから

認知症⇒人

- ⇒認知症の人・認知症高齢者
- ⇒認知症の宮崎さん
- ⇒便を壁に塗り付ける
- ⇒弄便行為
- ⇒つなぎ服

人⇒認知症

- ⇒認知症と人
- ⇒宮崎さんに認知症
- ⇒便を壁に塗り付ける
- ⇒便の処理が困難
- ⇒事前のアセスメントを充実
- ⇒生活のピンポイントの支援

『の』から『と』へ

『認知症の人』

『認知症』と『人』

認知症を通して人を一括りに捉える文化

人と認知症をそれぞれ捉える文化

3. これからの認知症ケアの方向性

Text p37~39

3-2) パーソン・センタード・ケアの基本的な理解

3-2)-(2) 認知症の「人」を理解すること

認知症の 人

これまでのケアは、認知症を「病気」に目を向け、「人」という部分をあまりにも軽視してきた

認知症の 人

近年では、病気の理解は大切だが、病気を抱えた人を理解するという視点が大切にされるようになって来た

- 認知症の人の「認知症」と「人」を理解する
 - 1) 「認知症」を理解すること
 - 脳の障害によって起こる病気を理解する（専門職として必須の知識）
 - ① 原因疾患の特徴を理解する（原因と臨床的特徴）
 - ② 原因疾患別のケアのあり方を理解する
 - 2) 「人」を理解すること
 - 性格傾向の理解：気質、能力、対処スタイル
 - 生活歴を理解する：本人の人生の歴史を理解する（物語を理解する）
 - 健康状態・感覚機能（視力や聴力等）の理解
 - その人をめぐる社会心理学的状況の理解：社会との関わり、人間関係のパターン

出典) 認知症介護研究・研修センター監「認知症介護基礎研修標準テキスト」.48,ワールドプランニング,東京(2015)

12

DVD 『認知症ケア』

NHK 厚生文化事業団

13

感想をシェアして下さい

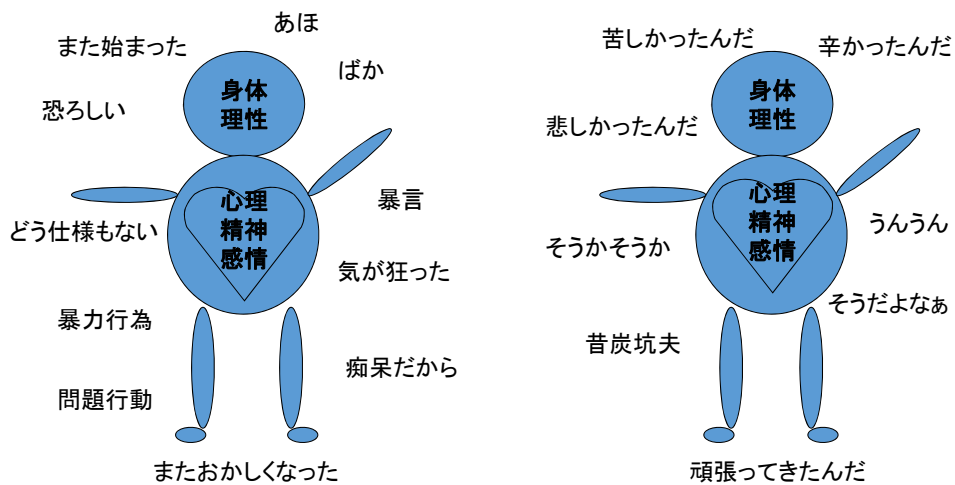
ルームウォーカーに向かって叫ぶAさん

～質問～

どうしてAさんは
ルームウォーカーに向かって
叫ぶのか？



私たちは身体（肉体）・精神（心）・魂（本能・感性）で
感じ生きている存在だとすると



つまり

問題な人と思っている人たちの
中心に居る彼の存在価値



解ろうと思っている人たちの
中心に居る彼の存在価値



過去に行われてきた介護?

- ◆手間が省けるからと、男性はブルー、女性はピンクの上下スウェットを平気で着させる専門職
- ◆誰が見ていようが場所さえも構うことなく、オムツ交換をする専門職
- ◆おむつを外すからと背面ジッパーのつなぎ服を着せる専門職
- ◆便が出ていることがわかっているにもかかわらず、おむつを交換しない専門職
- ◆ベットに高い柵をつけてその中に放り込む専門職
- ◆自分たちに不都合があるから薬で動けなくしてしまう専門職
- ◆外に出ていけないように、建物に閉じ込める専門職
- ◆井の中にご飯もおかずも薬も放り込んで食べさせる専門職
- ◆立ったまま、何も言わずに食べ物を口の中に放り込む専門職
- ◆できることであっても危ないからとやらせない専門職
- ◆洗髪しやすいからと男女かまわず短髪にする専門職

『私の不思議』

- 軽度の定義～自分たちの思うようになる認知症の人、若しくはおとなしい何も問題のない認知症の人
- 重度の定義～自分たちの思うようにならない認知症の人、若しくは問題のある認知症の人
- 問題の有無の定義～自分たちが安心（思い通りになる人、自分たちの言うことを聞いてくれる人、静かに一日黙って座ってくれている人、自分たちがやってもらいたい役割を気持よくやってくれる人、そもそも帰るなどと言わない人等々）してみれるかみれないかの違い

人の姿と認知症

- 姿の捉え方からスタート
どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援（介護・ケア）に影響する

**視点（姿の捉え方）は認識を創造し
認識は経験を創造する**

皆さんお疲れ様でした。
ありがとうございました。